

氏名 中 島 洋 一

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 3 5 9 号

学位授与の日付 昭和44年 3 月31日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学位論文題目 **Antitumor Factors of Draining Lymph Node Cells
of the mouse Sensitized with Ehrlich Ascites
Tumor Cells.**
Ehrlich 癌細胞移植時の局所リンパ節細胞の抗腫瘍性因子について

論文審査委員 教授 田 中 早 苗 教授 砂 田 輝 武 教授 尾曾越文亮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Part 1 Antitumor effect of subcellular factor. (抗腫瘍性因子の局在について)

同種移植免疫において宿主の局所リンパ節細胞は、自己に移植された腫瘍細胞に対し抗腫瘍性を有する。私は Ehrlich 腹水癌細胞で感作された純系マウスの局所リンパ節細胞の抗腫瘍性をたしかめ、抗腫瘍性因子の局在を解明するため、感作リンパ節細胞をトリプシンで処理すると抗腫瘍性因子を失う事を *in vitro* で明らかにした。そして感作リンパ節細胞を4つの分画に分け、それぞれ *in vitro* でその抗腫瘍性を検討した結果 8,500 g 沈査と 100,000 g 上清に抗腫瘍性因子を多く含んでいることがわかった。

Part 2 Properties of antitumor factors. (抗腫瘍性因子の性状について)

感作リンパ節細胞の 100,000 g 上清を下記の如く処理しその抗腫瘍性を *in vitro* で調べた。その結果、抗腫瘍性因子は、ザイツ型ろ過器を通過し、56℃30分間処理を行っても効力を失わないが、-20℃凍結融解、トリプシン処理で効力を失う。

Part 3 Passive transfer of the antitumor factor. (抗腫瘍性因子の Passive transfer)

感作リンパ節細胞の 100,000 g 上清中の抗腫瘍性因子が、同種リンパ節細胞に抗腫瘍性を Passive transfer することを *in vitro*, *in vivo* でたしかめ、抗腫瘍性因子は P N A 依存性の物質である事がわかった。

Acta Medizina Okayama 掲載予定

論文審査の結果の要旨

本研究は腫瘍移植時の局所リンパ節細胞の抗腫瘍性因子について検索した業績である。即ち感作リンパ節細胞の局在、性状について *in vitro* で検索し、結論としてこの抗腫瘍性因子はRNA依存性の物質を認めたものであり新知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。